

新宮山彦ぐるーぷ第2024回  
**釈迦ヶ岳登山口に砂・バラス追加補充と**  
**釈迦如来像足下石積修復準備作業**

◇実施日：2019年05月22日（水） 晴  
 ◇参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、梶野照雄。 3名。

作業項目

- ☆登山口に砂・バラスをデポ（総数202袋、約250kg）
- ☆釈迦ヶ岳山頂に雨水貯留槽5個を設置（総貯水量約100リットル）
- ☆山頂の荷揚げ済み砂・バラスを南側に移動
- ☆釈迦如来像足下石組の採寸と工法協議
- ☆崩れて広がっていた石を上方へ積み上げ
- ☆古田の森案内板の更新
- ☆荷揚げ済みセメントの状態確認



平日でも満車



前回分は空になっていた



砂・バラスを降ろす

今回の砂・バラスの持込量について（登山口デポ）  
 バラス47袋（1.33kg×47袋） 62.5kg。

- 砂 155袋（1.25kg×155袋） 193.7kg。
- 前回、4月21日の持込量（全て山頂へ）
- バラス78袋（1.2～1.3kg×78袋） 100kg。
- 砂197袋（1.2～1.3kg×197袋） 240kg。
- セメント21袋 25kg。
- 累積量
- ・バラス125袋 162kg。 ・砂352袋 433kg。
- ・セメント21袋 25kg。 合計498袋 620kg。



協力依頼看板を移す



古田の森に到着



腐食で外れた標識

10連休前、登山口に用意した約300袋（360kg）は連休中に登山者の皆さんのご協力で、全て山頂へ運び上げていただいた。その後、浅井證善氏より「5月30日、10名で登拝する、功德を積むため是非追加用意されたし」の連絡もあった。準備荷揚げ量はどれくらいが適量なのか、必要なか、判然としないが、2回目の補充は必要と思っていたので200袋を用意して、本日持ち込んだ。

朝7時、沖崎車に約250kgを積み込んで出発、9時ちよっと過ぎに登山口に到着した。平日であるが駐車車両は17台で、満杯

の状態であった。梶野君も到着済み、早速砂・バラスを登山口に置く。袋の締め口を下にして水が入らないようにした。  
 前回、袋に水が溜まり、ザックに入れるのを敬遠された教訓からである。

水溜用の容器5缶をそれぞれ背負子に括って、9時30分歩き始める。途中いつものように旧道分岐、古田の森、千丈平で一服し、12時前山頂に着く。なお、古田の森で設置後7年を経て腐食のため外れてしまった案内板を取り替えた。(梶野作)



新しく更新

山頂の砂・バラス

バケツリレーで移動

山頂では12〜3人の方が昼食中で、我々も早速腹ごしらえを済ませて、前記の作業に取り掛かった。

児嶋さんは持参の20リッターオイル缶3個を北側斜面に設置、上段にブルーシート(6m×6m)を張り、シートに降った雨水が下へ下へと流れ込む細工をされる。最後にブルーシートが飛ばされない工夫もされていた。

砂・バラスの移動は居合わせた5〜6名の登山者の自主的な協力があがり、手渡しのパケツリレー方式で移動完了。  
 一番心配したのは、前回4月21日、山頂にデポしたセメントが

湿気を吸って固まっていなかったか、ということだった。発泡スチロールケースに入れて、ビニール袋2枚で包んでおいた。恐る恐るテープを外して開封。小袋にしたセメントを全部外に出して点検する。あーよかった、固まっていない、入れた時と同じ状態だ。使用可能だ。このセメントの状態によっては、今後の作業の日程にも影響があるので一安心である。



自主的に協力頂いた



セメントを確認



全て外に出した



雨水貯水槽設置中



本日の参加者



2時間近く山頂に滞在し、午後2時前に下山開始した。



要修復個所の採寸

下山、まだ車が多い

膨張、小さな隙間を押し広げる。できるだけ水が溜まらないように工夫しなければならない。

作業では段取り準備を怠れば、工事着手に影響がある。しっかりと打合せ、準備が大切だ。

### 行動タイム

新宮 07:00→09:06 太尾登山口 09:25→10:43 古田の森 10:56→  
11:56 釈迦ヶ岳山頂 13:50→15:34 太尾登山口。

(記；沖崎、写真；梶野)

今後の課題について

- ◎ 砂・バラスは合計600 kgを用意した。セメントは砂・バラスの20〜30%位必要である。従って、150 kg前後のセメント(25 kg袋で7袋を山頂へ運ばなければならない)。
- ◎ 事前の荷揚げ品としては、右のセメント以外に、練り箱、スコップ、ジョレンなどの諸道具が必要になる。右セメントや道具の重さ、ポリウムを考えると、あと3回は出向く必要があるだろう。(場合によっては浅井證善氏のグループや新宮亀の子会などへの協力依頼も?)
- ◎ 大日岳工事の際に深仙灌頂堂にデポしたセメント(約30 kg)の荷揚げの段取りは??
- ◎ 工法的には基礎となる一番下に大きな石を置き、コンクリートで動かないように固定、その上に石を積み上げていくことになる。必要なモルタル・コンクリートは、現在の量(砂・バラス 600 kg、セメント 150 kg)で足りるのか??
- ◎ 現場の標高は、1800 mの高地、雨水や融雪水が凍結して